

紙芝居による災害伝承

日本在住外国人の視点

2011年3月11日午後2時46分、日本にいた外国の人々は
何を見、何を感じ、どう行動したか、
そして、それぞれの国は
在日被災者にどう対応したのか、
紙芝居で振り返り
その想いを語っていただきます。



3 木祝
20

15:00 ~ 17:00

会場：東北大学災害科学国際研究所



要申込

主催：東北大学 災害科学国際研究所、Hoover Institution, Stanford University

共催：(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) 協力：(一社) まち物語制作委員会、東北大学統合日本学センター

プログラム

- ・イントロダクション：プロジェクトと災害ストーリーテリングの概要説明
- ・（公財）仙台観光国際協会（SenTIA）発表：外国人住民と災害時の課題について
- ・紙芝居公演：イギリス人被災物語、ネパール人被災者避難物語
- ・パネルディスカッションと応答質疑

パネラー

リチャード・ハルバーシュタット：イギリス生まれ。
日本在住30年を超える。現在は、石巻市震災遺構門脇小学校
館長、震災紙芝居「帰国せず」のモデル
ドゥワディ・バワニ：（公財）仙台観光国際協会や仙台市、
宮城県等でネパール語の通訳・翻訳者、相談員等を務めている。
ネパール人被災者避難物語のモデル。
堀野正浩：（公財）仙台観光国際協会（SenTIA）国際化事業部。
仙台市の多文化共生事業に従事。

ゲルスタ・ユリア：東北大学災害科学国際研究所 災害文化
アーカイブ研究分野 准教授。防災コミュニケーション学分野、
インクルーシブ防災学分野 兼務。
上田薫：スタンフォード大学フーバー研究所ライブラリー＆
アーカイブスのリサーチフェロー兼日本ディアスポラ・コレク
ション・キュレーター。
いくまさ鉄平：紙芝居作家、一般社団法人まち物語制作委員
会代表理事、今回の上演作品の作家。

震災紙芝居 上演プログラム



2011年に発生した東日本大震災で最大の被災地となつた宮城県石巻市。死者・行方不明者は合わせて約3900人に及ぶなど甚大な被害を受けた石巻で、“被災地に残った外国人”として注目を集めたイギリス人の物語。リチャード氏はその後も日本に滞在、現在は石巻市震災遺構門脇小学校の館長として震災を語り継いでいる。



子どもの病気治療のため東日本大震災の3年前にネパールから日本にやってきたネパール人一家。やっと日本に慣れ始め、片言だが、日本語も少しずつ覚え始め、久々、夫婦でデパートにショッピングに出かけたとき東日本大震災に遭遇。病気の子どもを抱えての避難の物語。

東北大学 災害科学国際研究所

仙台駅から 仙台市営地下鉄東西線 八木山動物公園行き
「青葉山」駅下車「南1」出口から出て正面のキャンパスモールを
右へ徒歩約3分

申し込み 締切 3/18 ▶▶

<https://x.gd/lwPs5>



お問合せ：東北大学災害科学国際研究所 メール：gerster-damerow.julia.e1@tohoku.ac.jp TEL：022-752-2099
（*を@に変えて送信してください）